



NEWS LETTER

名古屋 YWCA 国際交流会
2019年1月

新年あけましておめでとうございます！
みなさま、楽しいお正月を迎えられましたか。
今年は災害などのないよい一年になることを祈りましょう。

活動報告

例会

12月17日(月) 12:30~14:30

参加者：7名

議題：次年度の計画—日本語サロンは3回くらい

おしゃべり広場イベントとして「抹茶をたててみよう」1回
非定期的に料理を教えてもらうなど

次年度の体制—今年度に引き続き代表を伊藤さん、会計を横江さんが引き受け
ていただきました。よろしくお願ひします。

おしゃべり広場

いつも賑やか、いろいろな話題で盛り上がっています

12月21日から1月6日まで冬休みです

お料理教室

12月11日(火) 12:30~

中国人の学生さんからいつも家で作っているというトマトと卵の炒め物を教えていただきました。とってもおいしかったです。



日本語学校行事

クリスマスパーティ

12月14日（金） 9：15～12：30

参加者：4名

前半は国別に分かれて自国の紹介、後半はクラス別の楽しいスキットでした
国際交流会は例年通り、ハンドベルを披露しました
笑い声いっぱいの楽しいひとときでした

外国人が話す日本語サロン

「トルコ：女性たちの生き方」

日時：10月27日（土）10：30～12：00

ゲスト：エリフ・エルドアン さん

参加者：23名

名古屋大学関連

秋の登録お手伝い 9/21,25,26,27 延べ 24名

秋のバザーお手伝い

電話当番	9/27	5名
前日	9/28	2名
当日	9/29	4名
反省会	10/23	3名

これからの予定

日本語学校関連

卒業式

日時：3月15日（金）9：15～

おしゃべり広場

年明けのおしゃべり広場は1月7日からです
日本のお正月の遊びを紹介します

外国人が話す日本語サロン

「自然保護先進国 コスタリカ」

ゲスト：シンティア・ララさん（名古屋大学研究生）

日時：2月23日（土）10：30～12：00

YWCA 関連

6月29日（土）

YWCA オープンデイが開催されます

毎年行われているワイワイ交流会の拡大版としてグループがそれぞれに活動紹介をします

国際交流会はこれまでの活動の写真などを展示したいと考えています

「ミニ日本語サロン」の計画もあります

もしなにか面白いアイデアなどがあればお知らせください

日本語サロン報告

10月27日の日本語サロンはまだ19歳という若いトルコからの留学生、エリフ・エルドアンさんがゲストスピーカーでした。名古屋大学法学部で政治学を学ぶ彼女は、名古屋（日本）に住んでまだわずか1年ですが、とても上手な日本語で、トルコという国とそこでの女性たちの生き方をテーマに話してくださいました。トルコという長く伸びるトルコアイスを思い出すくらいしか知識がありませんでしたので、どんな国なのか女性たちはどのような状態に置かれているのかなど、初めて知ることの多いお話でした。

アジアとヨーロッパの間であって8つの国に接するところに位置し、そのおかげで多くの文化が入り混じっているそうです。首都はアンカラ。人口は8,000万人を超え国民の99%がイスラム教徒なのだそうです。

1923年にトルコ共和国となり今に至りますが、それまでの約600年、オスマン帝国の時代が長く続きました。さて、エリフさんが一番のテーマに挙げられた女性たちの生き方に焦点を当てると、時代は更に遡って、遊牧民時代からのお話が始まりました。遊牧民の生活の中に社会組織が作られていたこのころは、男女は平等の労働力であり、遺産分与などの権利も男女共平等に与えられていたそうです。

しかし、その後トルコにイスラム教が広まり国民のほぼ全員がイスラム教徒となりました。そしてイスラム教の影響から男性中心の社会となっていったそうです。男性には一夫多妻が認められるようになる一方、女性は選挙権、参政権は元より、離婚や遺産相続の権利も与えられなくなったそうです。オスマン帝国の時代は国の人口に女性の数は入っていなかったと聞いて大変驚きました。

1923年トルコ共和国になり政教分離の体制となりました。漸く一夫多妻制や18歳以下の女性の結婚が禁じられるようになり、男女と一緒に学校で学べるようになったそうです。それ以降も男女の不平等をなくし、女性が様々な権利を得るためにトルコの女性たちは戦ってきたそうです。中でも、ネズィハ・ムヒッディンという女性は女性民党という連合を作りフェミニズムのリーダーとして活躍したそうです。

1930年に女性の選挙権が認められるようになりました。

1980年には第二のフェミニスト運動が始まり、今日に至るまで女性たちは様々な不平等のために戦っているそうです。

そしてエリフさんは今住んでいる日本にも同じように女性たちが受けている不平等な扱いがいくつもあることを指摘されました。現内閣の女性閣僚がたった1人であることや医学部受験の不正など、私たち日本の女性もそれらの問題にもっと敏感にならないといけないと思わされました。

